

# クリアフォルダを用いたバス路線図『お出かけマップ』の作成と効果について\*

Creating "regional information map" in plastic folder and it's effect

古市英士\*\*・村尾俊道\*\*\*・島田和幸\*\*\*\*・與口修\*\*\*\*\*・東徹\*\*\*\*\*

By FURUICHI,Eiji\*\*・MURAO,Toshimichir\*\*\*・SHIMADA,Kazuyuki\*\*\*\*・YOGUCHI,Osamu\*\*\*\*・HIGASHI,Toru\*\*\*\*\*

## 1. はじめに

近年、京都都市圏では買い物や送迎といった自由目的のトリップにおいて自動車利用が増加傾向にある。とりわけ女性においてその傾向が顕著であると共に、手段別で見ても徒歩から自動車への転換傾向が見受けられる。

これは、大型店の郊外進出や居住地の郊外化など都市構造の変化と共にまとめ買いの習慣や各家庭に自動車が行き渡り、近距離の移動にも自動車を利用するライフスタイルが広がっていることが原因と考えられる。

そこで、京都都市圏では、女性団体等と連携し、平成17年度から、一人ひとりのクルマ利用を見つめ直す取り組みを進めてきた。

本事例では、居住者向けモビリティ・マネジメントのツールとして作成した「お出かけマップ」の作成過程を報告すると共に、「お出かけマップ」を活用した居住者向けモビリティ・マネジメントの実施結果（速報）について報告する。

なお、「お出かけマップ」については、大阪大学松村助教授の指導を受け、クリアフォルダを採用した上下分離型を採用した。

上下分離型マップの特徴は、

- ◆ 挟む地図を目的に応じて作成できる汎用性の高さ
- ◆ 通常の紙の地図と比べ保存性が高い

点にあり地域情報のプラットフォームとなることが期待される。今回「お出かけマップ」を作成したのは京都府南部の長岡京市、城陽市、八幡市、久御山町、精華町の3市2町である。

## 2. 「お出かけマップ」の作成・配布

### (1) これまでの取組み

平成17年度には、お出かけマップづくりワークショップを3回実施した。その内容は以下に示すとおりである。

### 第1回 「かしこいクルマの使い方を考える」講演会

講師は、藤井聡教授（東京工業大学）松村暢彦助教授（大阪大学）、「公共交通とかしこいクルマの使い方を考える」の講演、及び「かしこいクルマの使い方を考えるための地図」についてプレゼンテーションを行うとともに「交通ダイアリー調査票」を配布。

### 第2回 ガリバーマップを用いたワークショップ

ガリバーマップ（タテ10m×ヨコ6m）を用いた、「普段の交通行動範囲」「目的地までの交通手段」の把握。



写真 - 1 ガリバーマップの作成

### 第3回 公共交通お出かけマップ（仮称）作成・編集ワークショップ

「公共交通で外出するのに便利なマップ」「安心して公共交通に乗れるためのマップ」について議論し、マップに掲載すべき情報を各グループで検討し、レイアウトについて検討。さらに、交通ダイアリー調査票を配布。

### (2) 「お出かけマップ」の構成

「お出かけマップ」は鉄道・バス路線網を記載したベース地図をクリアフォルダに印刷し、個別の目的地の位置を示した中綴じ地図を差し込み、ベースマップと重ね合わせることで、一体的な情報を提供するものである。とりわけ、バス路線網については、系統ごとに色分けし、運行経路が解るようにしている。中綴じに掲載する情報は、公共交通の時刻情報と公共公益施設を記載したもの（中綴じ

表 - 1 「お出かけマップ」の構成

構成	掲載情報
クリアフォルダ	ベース図にバス路線図等を記載
中綴じ1	表 公共施設等の位置情報
	裏 公共交通情報（ダイヤ）と公共公益施設の情報、連絡先
中綴じ2	表 店舗等民間施設の位置情報
	裏 店舗等民間施設の詳細情報

\* キーワーズ：モビリティ・マネジメント、お出かけマップ  
\*\* 正会員、工修（社）システム科学研究所 調査研究部  
（京都市中京区新町通四条上レ小結柳町 428 新町アイエスビル、TEL075-221-3022、FAX075-231-4404）  
\*\*\* 非会員、京都府企画環境部交通対策課  
（京都市上京区下立売通新町西入）  
\*\*\*\* 非会員、京都府 職員総務室  
\*\*\*\*\* 非会員、（社）関西経済同友会 調査企画部  
\*\*\*\*\* 正会員、工修（社）システム科学研究所 調査研究部

1) お出かけに必要な買い物、グルメ、病院などの目的地情報を記載したもの(中綴じ2)を作成した。なお、中綴じ2については日本民営鉄道協会の協力により京都府地球温暖化防止活動推進センターが発行したものを同封している。

(2)「お出かけマップ」の作成

「お出かけマップ」の対象

対象地域の選定に当たっては、近年コミュニティバスを運行し始め、新たな交通モードが追加された各市町の内、女性団体等の協力が得られた5市町を対象とした。

「お出かけマップ」は、女性団体の方々に自分たちがどのような情報があれば、たまにはマイカー以外で出かけようと思うかと問いかけながら編集を行っている。

半ば習慣的に自動車を利用し郊外の大型店を利用する人々に、バスを使っても比較的簡単に行けるという「気づき」、まちなかの魅力的な店舗・スポットを紹介することで、公共交通を利用した地域内の「お出かけ」を促すことをねらいとした。

表 - 2 配布対象地区

城陽市：友ヶ丘地区	840世帯
長岡京市：奥海印寺地区	1,080世帯
八幡市：岩田地区、下奈良地区等	1,174世帯
久御山町：老人クラブ連合会加入世帯	1,236世帯
精華町：光台5・8丁目、乾谷等	1,015世帯

配布対象地域の選定に当たっては、コミュニティバス沿線で、鉄道駅から距離が2 km 超のバス利用が想定される地域において、自治会の単位や配布方法を勘案しながら選定を行った。

「お出かけマップ」のデザイン

モビリティ・マネジメントの実施に当たっては、配布物の質が参加率に影響を及ぼすと考えられるため、マップのデザインについては京都精華大学(デザイン専攻)の協力を得ながら、ワークショップを通じ、わかりやすさ、見やすさを追求した。

「お出かけマップ編集会議」の開催

より多くの効果を得るためには、掲載情報の質的充実が重要であり、そのためには対象となる読者の視点に立った情報や地元ならではの情報を収集することが重要となる。

そこで、調査対象市町の女性団体、老人クラブ連合会とワークショップを開催し、地域に密着した情報の収集やその取捨選択、マップの見やすさについて協議を行った。



写真 - 2 「お出かけマップ編集会議」の様子  
(写真：八幡市)

これらのワークショップを通じて作成した「お出かけマップ」を以下に示す。図 - 1(1)に(2)を差し込み、ロゴマークを重ねることによって、クリアフォルダ面の路線図上に目的地情報が表示されることとなる。



図 - 1 (1) クリアフォルダ面(ベースとなるバス路線図)

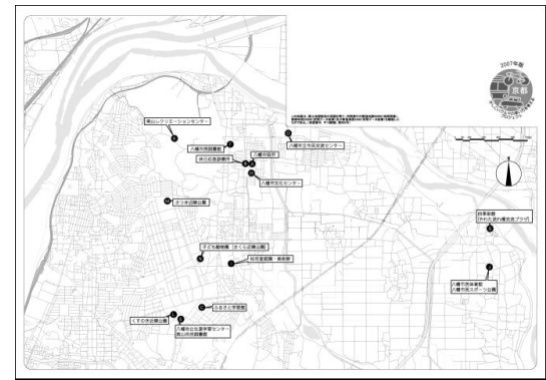


図 - 1 (2) 中綴じ1表面(公共施設位置情報)



図 - 1 (3) 中綴じ1裏面(公共交通〔鉄道・バス〕時刻表)

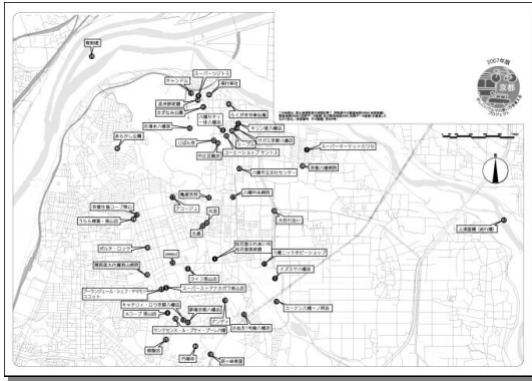


図 - 1 (4) 中綴じ2表面 (店舗等民間施設位置情報)



図 - 1 (5) 中綴じ2裏面 (民間店舗等の詳細情報)

久御山町では老人会の協力を得たが、そこでは「全ての診療所・病院情報が欲しい」と言った意見が得られたため、それらを反映したマップとなっている。

他の地域においても、それぞれ地域の実情に応じたマップとなっている。

### (3) 居住者向けモビリティ・マネジメントの実施

「お出かけマップ」とともに以下の媒体を配布しワンショットTFPを実施し、バス利用者の動向を計測した。

- ・調査趣旨説明書 (ウラ面に「お出かけマップ」の使い方についての説明書)
- ・かしこいクルマの使い方を考える小冊子・ハガキアンケート (「お出かけマップ」の評価、公共交通に対する意見等)

配布にあたっては、対象市町の協力のもと、自治会を通じて配布を行った (久御山町の場合、老人クラブ連合会の各会を通じ配布)。また、配布時期は平成 19 年 1 月 31 日 ~ 2 月上旬としている。

## 3. 交通行動変容にかかる効果計測

### (1) 効果計測の内容

「お出かけマップ」の配布による交通行動変容について、本調査では、マップ配布前後でのバス乗客数の比較により効果計測を行う。

表 - 3 効果計測に使用した乗客数データ

	事前 (配布前)	事後 (配布後)
配布前後での比較	平成 19 年 1 月	平成 19 年 2 月
前年同月比との比較	平成 18 年 2 月	

### (2) 効果計測結果

対象市町における「お出かけマップ」配布前後のコミュニティバスの利用状況を見ると、路線や地域によるバラツキが見られたものの、全体的に以下に示す特徴が得られた。

- ・路線バスで頻度の高いところでは利用者の増加傾向が見られた。八幡市の橋本駅行きの路線などで、この取組の宣伝効果による利用増加がみられた。
- ・1 時間に 1 本も走っていないサービスレベルの低い路線では、情報提供だけでは利用促進が十分には図れないなどの課題も見受けられた。

## 4. アンケート結果から見た「お出かけマップ」の評価

### (1) アンケート調査の概要

「お出かけマップ」配布時に、読者の視点からマップの評価を得ることを目的として、アンケート調査を実施した。アンケートの調査項目は以下のとおりである。回収率は市町によってバラツキがあり 6~9%となっている。

- ・バスの利用頻度 (コミュニティバス / 一般の路線バス別)
- ・マップによる外出行動の意向 (5 段階評価)
- ・行ってみたい店舗、施設の有無 (自由記述)
- ・マップによるバスの利用意向 (5 段階評価)
- ・マップの見やすさ (5 段階評価)
- ・マップに対する感想 (自由記述)
- ・公共交通に関する意見 (自由記述)
- ・居住地 (市町名)
- ・自由記述

表 - 4 アンケートの質問項目

### (2) アンケート調査結果

「お出かけマップ」を見て「今まで以上にバスに乗ってみよう」と思う人の割合は全体で 28.6%となっている。市町によってバラツキは大きく、高いところでは 37%に達する。また、「お出かけマップ」の見やすさについては、一部の市で「見にくい>見やすい」となっており課題が残されている。「お出かけマップ」の見やすさ別に、今後の利用意向を見たところ、当然ながら「見やすい」と回答した人ほど利用意向の高いことが明かとなった。

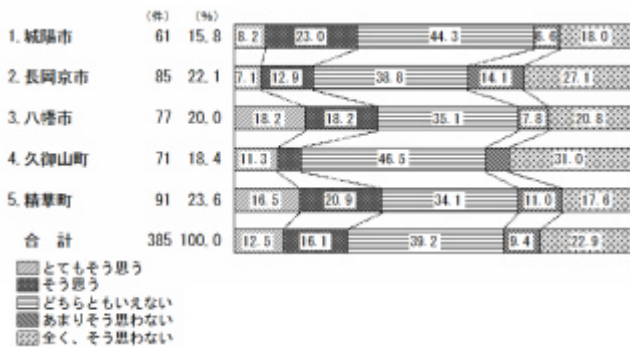


図 - 2 (1) 「今まで以上にバスに乗ってみよう」という意向

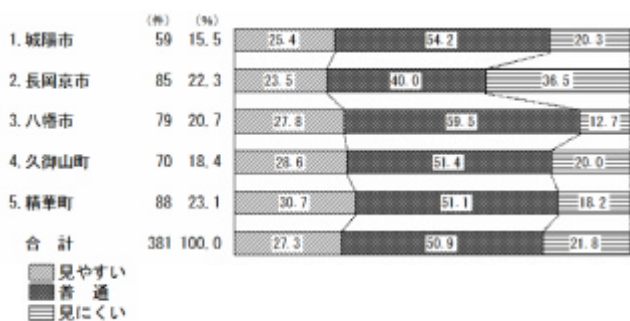


図 - 2 (2) 「お出かけマップ」の見やすさ

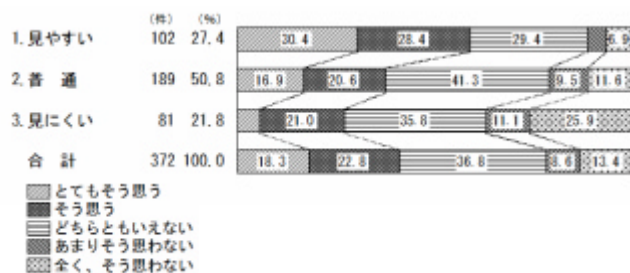


図 - 2 (3) 「お出かけマップ」の見やすさの評価別に見た「今まで以上にバスに乗ってみよう」という意向

また、アンケートの自由意見では、以下のように「お出かけマップ」の配布に対する肯定的なご意見もいただいていた。

表 - 5 自由記述意見の紹介

半月前に自家用車が故障しました。それまでは、毎日車を運転して何処でも行きましたが、路線バスに乗って初めて食料品の買い物に行ったところ、必要なものしか買えない不便さが逆に気に入りました。現在、バスに乗ることが楽しくて、お出かけマップを活用させていただきます！」  
(長岡京市)

「退職と共に引っ越して1年6ヶ月…なかなか回りが見えず困っていたところ。このお出かけマップ、私の強い味方になりそう」  
(長岡京市)

## 5. 効果と課題

### (1) 実施効果

#### 利用促進に対する効果の計測

マップ配布による配布対象地区内のバス乗車客数が増加した。便数の多い路線のバスでの増加が顕著であり、利便性の高いバス路線で高い効果が得られた。

#### 女性団体との連携

2年間にわたる取り組みを通じ、女性団体のかしこいクルマの使い方やMMに対する理解が深まった。

19年度においては、この取組を自主的に進めようとする動きも出てきている。

### (2) 課題

#### プロジェクト実施時期の調整

交通事業者のダイヤ改正時期によっては提供するマップの有効期限が短期間となる恐れがある。各交通事業者のダイヤ等改正時期を踏まえ、マップの作成・配布のスケジュールを行う必要がある。

#### コスト削減・情報更新の担い手の必要性

情報媒体として機能性・保存性も高いというメリットを有するが、製作にかかるコストが高く、コストの削減が課題である。

また、中綴じページに収録する目的地情報は、継続的な更新が必要であり、更新作業の担い手の確保が必要である。

そのため、路線図や目的地情報の更新体制の確立と費用負担のあり方など「プログラムの継続的な実施」に対する合意形成が必要である。

### 謝辞

今回の取り組みは、「公共交通活性化総合プログラム」として近畿運輸局の支援を受けて実施しました。ここに記して謝意を表します。

また、大阪大学大学院工学研究科の松村暢彦助教授には、クリアフォルダ方式のアイデアのみならず、プロジェクト全体を通じて、多大なるご指導を賜りました。ここに記して謝意を表します。

さらに、マップづくりにおいてご協力いただいた、地元市町の関係者の皆様、各団体の皆様、精華大学大学院の中井智子様、京都府地球温暖化防止活動推進センターの伊東真吾様、井上学様、そしてマップの印刷においてご協力いただいた(社)日本民営鉄道協会にも感謝の意を表します。